

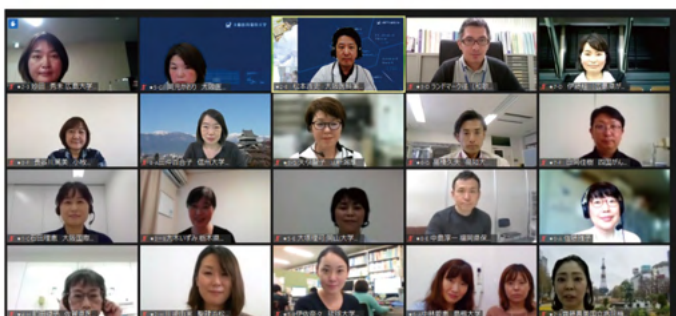
がん登録実務者リモート情報交換会 実務でGO! 報告



松本 吉史

大阪医科薬科大学病院診療情報管理室

日本がん登録協議会(JACR)第30回学術集会のプログラムの一環として、学術大会2日目(6月10日 12:00~14:00)にJACR教育研修委員会企画『がん登録実務者リモート情報交換会 実務でGo!』を開催しました。プログラム内容は①Meet with presenter:今回のJACR学術集会へ口演およびポスター演題登録された発表者より演題について一言アピールをしていただきました。②交流会:座長は、私と島根大学医学部附属病院 中林愛恵さん。ファシリテーターは全国各地の実務者(18名)にご協力いただき、グループごとに2名体制でZoomの機能であるブレイクアウトルームを活用し、情報交換会を行いました。



ご協力いただいたファシリテーターの皆さま

参加者は、北海道から沖縄まで28都道府県の48施設74名でした。参加申込時に各施設におけるがん登録業務内容などを調査したところ、担当している業務別では、院内がん登録(全国がん登録_提出側含む)31名、全国がん登録_都道府県登録室25名、全国がん登録_都道府県登録室と院内がん登録両方の業務経験者11名、研究者7名でした。

開催に向けて関係者は、ブレイクアウトルーム機能や操作方法を学ぶことから始め、ブレイクアウトルーム使用時の運用方法やトラブル解決のルールなどを設けました。当日の情報交換会では、オンライン交流会を30分×2回を予定していたため、

短時間、かつ初対面の実務者同士がどうすれば打ち解けられるかなど、話す内容や雰囲気づくりについてファシリテーターの皆さまと共に真剣に取り組みました。

初めての企画、その上、オンライン開催ということで、不安が払拭できないまま当日を迎えましたが、各グループのファシリテーターが率先し、アイスブレイクのネタに地元名産の紹介など参加者の方々へ積極的に声をかけていただいたことが功を奏してグループ内の緊張がほぐれ、楽しそうに話し合っている様子が多数うかがえました。

グループの話題では、自己紹介を始め、研修会、後任育成、コロナ禍の影響、安全管理、データ活用、院内がん登録と全国がん登録の違いや繋がりなどが話し合われました。コロナ禍により他施設の方と交流する機会が更に減少し、このような交流会で他府県の状況や院内/全国の垣根を越えた交流ができてよかったという感想が多くありました。しかし、順番に自己紹介や関心がある話題を発言後、残り時間が僅かしかなかったという状況も見られ、また、学術集会を通じた情報交換会ということもあり、熟練した実務者が多く、経験の浅い実務者の方々も気軽に参加できるような広報や情報提供も今後の課題と感じました。

開催後のアンケートでは、「プログラムについて」はいずれも8割が満足、「今後も参加したいか」という質問には8割が参加したいという結果で、皆さんに喜んでいただけたのではないかと思います。

ファシリテーターの皆さまには、参加された方々を温かく迎え入れていただき、かつ実務者のモチベーションをあげてもらえるような極め細やかな対応と情報交換会の運営にご尽力をいただきましたことに感謝を申し上げます。また、開催に際し学術集会会長の田淵先生をはじめ、諸先生方には多大なご支援を賜りましたことをこの場をお借りして深謝申し上げます。

会員(個人・団体)を
随時募集しています

<http://www.jacr.info/>

会費

個人(賛助) …… 年間 3,000円
団体(賛助)1口 …… 年間 50,000円
(1口以上)

- 寄付金も受け付けています
- 入会のお申込みや寄付等のお問い合わせはウェブサイトの「お問合せ」よりお知らせください